

## オルフェの庭から 23



ご無沙汰しておりますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか？  
1月のオルフェの庭クラスでは、新しい年を迎えるという気分を響きで味わうということで、「ハレルヤ」や「新しい年の朝」などを弾きました。

冬の凜とした透き通った空気の中で弾くと、毎回テーマソングとして弾いているレインボー・サークルのカノンも、ことのほか、すがすがしく響いたように思います。同じ曲でも季節やメンバーによって、また場所や雰囲気の変化に応じ、毎回ちがった響きになり、

新たな発見があるのがおもしろいですね。

この回では、以前からぜひ皆さんと共有したいと思っていた、シュタイナーの「魂のこよみ」を紹介し、その日の暦にあたる箴言を朗読し、また「魂のこよみ」をテーマに絵を描いているという桃原さんに作品を見せていただき、色や動きから季節を感じるということも試みました。

今年の冬は私自身は、ライアーに触れることが少なかったのですが、小田山のふもとで、草木が枯れ、大地がかちかちに凍りつく中で、こもるように生活しながら、それでも水仙が咲き、梅の小さな小さなかたいつぼみに、春を予感し、もっとあたたかくなったら、ライアーを思いっきり、弾きたいなど春の訪れを待ち望んでおります。

2月のオルフェの庭クラスはお休みです。 また3月、復活祭の響きでお会いしましょう。

のんのん

~~~~~『魂のこよみ』ルドルフ・シュタイナー 第43週 1月26日～2月1日~~~~~

深い冬のなかで  
真の崇高なる精神は、あたたかくなりながら  
この世界のすべてのものに  
真心の力を通して、存在する力を与える。  
そして魂の炎は、厳しい冬の寒さにも負けず  
人間のなかで力強く燃えあがっていく。(鳥山雅代訳 水声社刊)

深い 冬のさなかに あっても  
精神の 真の存在は 熱をはらみ  
心の力を通して 万象に まさに  
ここにあることの 力を 与える。  
勢いづく 魂の炎が 人の内で  
世界の 冷気に抗して燃え上がる

(秦 理絵子訳 イザラ書房刊)



深い冬の中で  
霊の新存在が目覚める。  
それは心の働きを通して  
宇宙の現象に実在の確かさを与える。  
人間の内部では魂の火力が高まり  
宇宙の冷氣と戦う。

(高橋巖訳 イザラ書房刊) 現在、ちくま文庫で出版されています。